

金原達夫 (広島修道大学商学部教授)  
木村 弘 (広島修道大学商学部准教授)

**自動車部品メーカーによる  
環境経営の国際的展開**  
- JTEKTのケース -

修道商学 Vol.55 No.1  
pp.77~97 2014.9.

近年、自動車メーカーのグローバル展開に伴い、部品サプライヤーにおいても国際競争が激化し、海外進出を余儀なくされているだけでなく、地球環境保全への関心の高まりから、環境問題への対応も迫られている。

このような中、本論文は、自動車部品メーカーである JTEKT を事例に、環境経営の国際展開について考察している。

まず 1. で研究の目的や背景を述べた後、2. で JTEKT の概要を述べている。JTEKT は、2006 年に光洋精工 (株) と豊田工機 (株) の合併によって設立された。資本金 455 億円、従業員 10,385 人 (連結 39,834 人) で、自動車関連部品や工作機械を製造している。約 2 割がトヨタ自動車向けであり、トヨタグループに所属するものの、グループ外への販売も多い。

次に 3. では、自動車部品メーカーの事業環境について、①グローバル化：サプライチェーン全体での効率化と環境経営の強化が重要、②サプライチェーン管理の強化：コスト、サービス、品質、カーボンの 4 要素を巡り、製品、プロセス、情報、キャッシュフローの最適化を目指している、③サプライチェーンの環境対策強化：社会的責任として、あるいは EU の環境規制への対応や化学物質の管理、温室効果ガス削減に向けた省エネ対策など、経済価値の提供だけでなく環境保全に向けた環境経営が求められてい

る、と述べている。

このような事業環境の中、4. では JTEKT の環境活動として、①地球環境保全委員会の下、ISO14001 の認証取得やグループ企業に各種委員会を設置するなど環境マネジメント体制を整備、②7つの環境管理重点テーマ (環境製品、省エネ、廃棄物、化学物質、資材、物流、地域とのコミュニケーション) が活動目標として掲げられ、計画・実行・評価を実施、③環境配慮型製品の開発・設計、④温室効果ガスの削減、⑤化学物質管理システム、⑥廃棄物削減などの活動を紹介している。これらの活動にかかる環境保全コストは経済効果を上回っているものの、環境リスクの低減に貢献しており、潜在的費用の増大を抑える効果を上げているとしている。

5. では、JTEKT による環境経営の海外展開として、①マレーシアの工場での展開、②アセアン統括子会社による環境経営の展開状況について紹介している。

そして 6. の結びにおいて、自動車メーカーのサプライチェーン管理の特徴として、①効率化やコスト競争力の強化のため、バリューチェーンとしてチェーン全体の統合に向かっている、②環境対策など環境リスクの低減活動は、管理システムの構築や組織能力の向上という観点からも有効、③省エネ・省資源にチェーン全体で取り組む、④効率的なバリューチェーンの構築が価値創造につながっている、とまとめており、環境負荷の削減や環境リスクの低減は部品メーカーの課題であるとともに競争優位の源泉ともなっていると述べている。

本論文は、大規模な自動車部品メーカーの環境経営の取り組みについての詳細な調査報告となっている。今後、JTEKT の業界での位置づけや業界内における環境活動の意義および他業

界のとの比較などへの言及が期待される。

(九州情報大学経営情報学部教授 遠藤真紀)